

企業の社会的無責任 Corporate responsibility unmasked

NIジャパン No.95 2007年12月号
企業の社会的無責任

< 内容 >

(本文は日本語です)



1 イントロダクション - 木を見て森を見ず

2 企業の社会的責任の現実

今日、世界のどこへ行っても、企業は「企業の社会的責任(CSR)」を求める声からは逃れることができない。多くの企業が、さまざまなやり方で目につくような社会的活動を行い、社会や環境に配慮した方針を打ち出している。しかし、本業で発生している社会への負の影響はそのままに、CSR活動ばかりが喧伝される傾向がある。そんな「グリーンウォッシュ」と言われても仕方がない虚実ないまぜの世界をのぞいてみよう。

12 CSRへの批判の声

アナン前国連事務総長の発案でスタートしたグローバル・コンパクト。この企業と国連のパートナーシップを進めるプログラムは、グローバル化に伴う問題の解決を目標としているものだ。すでに多くの企業と、企業以外の団体も参加しているが、その有効性は疑問視されている。国連の「食料に対する権利」特別報告者、ジャン・ジグレルがその理由を激白する。また、搾取的労働環境の撲滅に取り組む活動家ジェフ・ポーリンガーが、途上国の工場での労働環境と多国籍企業の対応を報告する。

14 民衆 対 企業 その歴史

企業のスキャンダラスな歴史と民衆の闘いの300年。

20 スモール・イズ・パワフル

企業がCSR活動に精を出すかわらで、企業正義を求める活動が行われている。すでに数百年の間、企業が自らの手で不正義を是正できない以上、企業の自浄能力には期待できない。企業にはどのような物事について正義が求められ、人々にはどのような考え方と取り組みによって企業に正義を求めているのだろうか。

27 見境のない企業活動の実態

CSR活動で有名な企業だからといって、本業でも真摯(しんし)に社会への影響を考えて活動しているとは限らない。利益のためなら消費者もあざむき、政府には必死に働きかけ、本業がもたらす社会や環境へのマイナスの影響も気にとめない。巨大石油会社のBPと食品会社のネスレを例に、グリーンウォッシュの実際の手口を見てみよう。

30 コンタクトポイント

32 世界の国のプロフィール - ラオス(NI p36の翻訳)

36 世界のニュース(NI p27-29, p32からの翻訳)

強制立ち退きのとばっちりを受けたウガンダの野生動物
ビッグバッドワールド(風刺漫画)

NIジャパンは、NIからの翻訳記事を中心に構成されています。

NI(英語、A4・カラー、約40ページ)と日本編集のNIジャパン(日本語、A5・モノクロ、40ページ)をセットでお届けします。

【定期購読(1・2月号は合併号のため年11回発行)】

NI & NIジャパン 1年(11冊) = ¥10,500 2年(22冊) = ¥19,000

NIジャパンのみ 1年(11冊) = ¥5,000 2年(22冊) = ¥9,000

NIのみ 1年(11冊) = ¥8,000 2年(22冊) = ¥14,000

【最新号/バックナンバー】 >>> ¥400~¥1,000

「企業の社会的責任(CSR)」は、時代を象徴する最もホットなビジネス戦略のひとつである。ここ10年で、莫大な利益をもたらす産業がひょっこりと現れた。その産業の目的とは、ひとえに無情な企業のやり口を繕い、企業イメージをこざいりに整え、うるさいキャンペーン活動家を黙らせることにある。今月のNIでは、規制を逃れ、批判を鎮め、評判の悪い企業活動から目をそらそうとして行われるCSRの実態と、企業のCSRに対する本音を探る。

NI No.407 December 2007
Corporate responsibility unmasked

< 内容 >
(本文は英語です)



企業をめぐる激論:

改革か、それとも革命か? 企業に協力しながら企業を変えていくことで社会が変わると主張するジョナサン・ポリット(英国の持続可能な開発委員会委員長)と、企業には全く期待できないと考える環境活動家のクレア・フォーセット。この2人が火花を散らす討論の様子を掲載。 [ウェブサイト](#)で翻訳を掲載中

企業の社会的責任 その事実

イラク撤退の道

外国の軍隊による侵略とその駐留によって、いまだに悲劇が続いているイラク。当初から侵略に反対していた人々も、軍の撤退をどうしたらよいのか頭を痛めている。このセクションでは、撤退への5つの提案、米国の民主党内でぶつかるイラク駐留に関する異なる利害、イラクと同じような状況に置かれているインドのマニプル州の事例について報告する。

南の国からの一コマ

バングラデシュ人写真家が撮ったダルフル南部の避難キャンプの子どもたち。

世界のニュース

モロッコ占領下にある西サハラの行き詰まり/強制立ち退きのとばっちりを受けたウガンダの野生動物/米・中米間自由貿易協定とコスタリカ/気候変動条約会議にセカンドライフで出席/ほか

ワールド・ビーターズ

「世界で4番目にパワフルな女性」と言われるフィリピンのアロヨ大統領。彼女がその地位にとどまっていられるのは、実は軍による反体制派への容赦ない弾圧のおかげなのである。

このほかの記事の詳細はウェブサイトをご覧ください

* ホームページでは、購読お申し込みやバックナンバー照会、無料メールマガジン申し込み等がご利用頂けます。

< お問い合わせ・お申し込み >

ニュー・インターナショナリスト・ジャパン 有限会社インテリクス

〒182-0035 東京都調布市上石原1-36-6 西調布シティ303

Tel / Fax : 042-498-3126

E-mail : nij@ni-japan.com

URL <http://www.ni-japan.com>

